

「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルウェブサイトの利用状況と 情報発信のあり方に関する検討

研究分担者：盛一 享徳（国立成育医療研究センター 小児慢性特定疾病情報室）

研究協力者：渡部 静（国立成育医療研究センター 小児慢性特定疾病情報室）

白井 夕映（国立成育医療研究センター 小児慢性特定疾病情報室）

森 淳之介（国立成育医療研究センター 小児慢性特定疾病情報室）

研究要旨

「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルウェブサイト（<https://www.shouman.jp>）は、厚生労働省小児慢性特定疾病情報管理事業により、2015（平成27）年1月から本格運用が開始され、小児慢性特定疾病児童等の治療・療養生活の改善に資する情報の一元化を図り、疾患概要や診断の手引きのほか、各種相談窓口・支援団体等に関し、掲載情報を随時更新・拡充するとともに、問い合わせフォームを通じ関係各所からの問い合わせ対応を行っている。

今年度は、2021（令和3）年11月より対象疾患が増加したことから、新規追加疾病に関する概要や診断の手引き、医療意見書の作成等を行った。2022年（令和4）年度のポータルウェブサイトへのアクセス数は、年間約370万件、1日当たり平均1万件であり、アクセス端末種別は、例年同様スマートデバイスからのアクセス数が7割あり、患者やその家族、医療従事者、行政関係者など、国民全般から幅広く閲覧されていることが推察された。

今後も引き続き、情報をより充実させ、多くの国民に向けて、最新かつ正確な情報発信を行いたい。

A. 研究目的

厚生労働省小児慢性特定疾病情報管理事業にて運営している「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルサイトの利用状況を分析することを目的とした。

B. 研究方法

「小児慢性特定疾病情報センター」ポータル

ウェブサイト（<https://www.shouman.jp>）および平易な表現で医療費助成について説明している（<https://kodomo.kouhi.jp/>）について Google LLC が提供しているアクセス解析サービス Google Analytics を用いて解析を行った。データ期間は、2022（令和4）年4月1日から2023（令和5）年3月31日までの1年間とした。さらに2022年4月1日から2023年3月31日までの1年間に、本ウェブサイトの問い合わせフォームに寄せられた問い合わせについて

検討した。

(倫理面の配慮)

本研究は個人を特定しないデータを用いて実施しており、特別な倫理的配慮は必要ないものと判断した。

C. 研究結果

1) 時間軸からみたアクセス数

2023年4月1日から2023年3月31日の1年間における総アクセス数(セッション数)は3,717,696件であり、総ページビュー数は6,325,561件であった。月別のアクセス数は、上期に多く6月が最多であった(図1)。

一日当たりの平均アクセス数は10,305件で昨年度と比較して約0.8倍であった。平日の平均アクセス数は11,087件、土日祝日の平均アクセス数7,219件であった。平日の曜日別では、表1の様に、平均アクセス数は火曜日がやや多く、金曜日が少ない傾向がみられ、火曜日、水曜日と金曜日との間には平均アクセス数に統計学的な有意差があったが、他の曜日との間には有意差はなかった(一元配置分散分析では、 $F=3,717, p=0.006$ 。火曜日; $n=49$, mean 12285.4, sd 1761.1、水曜日: $n=50$, mean 12001.6 sd 1729.6、金曜日: $n=50$, mean 11030.1, sd 1516.9、TukeyのHSD検定による多重比較の結果、金曜日は火曜日や水曜日より有意に平均アクセス数が低かった)。

時間帯別アクセス数は、全体でみると日中11時、15時、夜間21時をピークとして多峰性を示していた。日中はスマートフォンからのアクセスが6割を占め、夜間も同様8割はスマートフォンからのアクセスであった(図2)。

2) 地域別アクセス数

全ての都道府県からアクセスが認められ、アクセス数の多い順に東京都、神奈川県、と昨年度と同様であった。一般的に情報通信技術の領域におけるアクセス数の分布は、べき乗則になることが知られている。昨年度は、東京都は人

口からみたアクセス数が非常に少なかったが、今年度は、地域別のアクセス数を20歳未満人口で並べた場合、図3に示す様に、予想指数関数に創形でのアクセスが認められていた。

海外からのアクセスについては、2022年度の1年間で、米国が10,333件で最も多く、次いでシンガポール1,355件、中国1,281件、オーストラリア1061件フランス962件、インドネシア791件、タイ665件、ハンガリー661件、ドイツ639件、台湾428件、英国391件の順であった。ブラウザの利用言語は日本語が49%、英語が1.1%であった。

3) 端末(デバイス)種別アクセス数

2022年度のデバイス種別アクセス数は、モバイル端末が68.8%、PC端末が31.9%、タブレット端末が2.2%であり、モバイル端末とタブレット端末を合わせたスマートデバイスによるアクセス数が昨年同様、全体のおよそ7割であった。全ての時間帯でモバイル端末からのアクセスが上回り圧倒的に多いことは昨年同様であった。

4) ページ閲覧の特徴

全アクセス数のうち、トップページ経由でのアクセス数は全体の約4.7%であった。トップページを経由せず、サイト内ページへの直接アクセスは、全アクセス中96.5%であり、多くは検索エンジンからジャンプしてきており、Google searchとYahoo searchからのアクセスは85.3%だった。また、直接サイト内ページへアクセスのうち、対象疾病ページへのアクセスは69.7%を占めていた。新規ユーザのアクセス数は88.4%を占めていた。利用されているオペレーティングシステムは、iOS(54.3%) Windows(20.04%)、Android(17.97%) Macintosh(6.91%)であり、7割以上がスマートフォンからのアクセスと考えられた。

5) ウェブ問い合わせ件数

これまで実施主体等の行政からの問い合わせ対応も行っていたが、2022年頭より、行政関

係の問い合わせは厚生労働省難病対策課が一元的に引き受ける方針となったことから、本年度は行政からの問い合わせ分が減少した。2022年度の1年間における問い合わせ件数は267件で、昨年度と同一種別で比べた場合、ほぼ同数だった。問い合わせ者の種別では、一般（家族・本人）が最も多く135件（50.5%）、医療従事者56件（56.2%）行政機関29件（29.1%）、その他（企業・医療従事者、福祉関係、学生、個人など）23件（23.9%）であった。月別問い合わせ数では、今年度は5月、6月、8月の順に問い合わせがあり、曜日別では、全ての属性において平日が多かった。平日の問い合わせ数は全体の89.5%であり、そのうち48.0%が家族・本人であった。時間別問い合わせ数では、最も多い時間帯は10時台28件、次いで17時台23件であった。日中時間帯である9時から18時までの間に199件あり、全時間帯の問い合わせ数7割近く（75%）を占めるが、そのうち約半数94件（47.2%）が一般（家族・本人）からであった。また夜間の20時から24時までの問い合わせは35件で全体の13%であるが、そのうち5割（18件51.4%）が一般（家族・本人）からであった。

6) kodomo.kouhi.jp の利用状況

当該ウェブサイトは、難解となりがちな医療費助成の説明をイラストや漫画などを交えて、平易に説明をしている一般国民向けに特化したウェブサイトである。一般国民の利用者の多くがスマートデバイスを利用していることから、ページレイアウトもスマートデバイスによる閲覧に特化した作りとしており、また小児慢性特定疾病ポータルウェブサイトが正確性を重視するため、内容が難解であることから、意図的にポータルウェブサイトの雰囲気と全く異なる様相としたサイトである。

ポータルウェブサイトのトップページにリンクがあるが、多くの利用者はトップページをスキップしてしまうことから、最近までアクセス数は多くはなかった。しかし2022年10月頃より、Google searchやYahoo searchの検索

結果の上位に登場する様になり、アクセス数が上昇してきていた。また一部の自治体で、kodomo.kouhi.jpへのリンクを紹介していたことから、自治体ウェブサイトを経由してアクセスされている場合もあった。

D. 考察

時間軸からみたアクセス数

本年度のアクセス数は約370万件と昨年よりやや減少していた。月ごとのアクセス数に大きな違いは認められなかった。時間帯別アクセス数は、例年同様に日中の業務時間帯が最も多く、9時から18時の時間帯で6割を占め、うちモバイル、タブレットからのアクセスが6割まで増加している。デスクトップ端末4割程度であった。19時から23時は全体の2割のうち8割に増加している。日中、夜間帯問わず、一般国民からの閲覧の可能性が高いと考えられた。これらの傾向は例年と比較して個人の閲覧が増加したと思われた。

地域別アクセス数

地域別のアクセス数について、全ての都道府県からのアクセスが認められ、大都市を抱える都道府県でアクセス数が増える傾向は例年同様であった。前年度は、20歳未満人口あたりのアクセス数は、東京都からのアクセスが突出して少なかったが、本年度は予測値とほぼ同等のアクセスを認めた。東京都は近年特別区が児童相談所設置市となり実施主体として、都から独立し始めていることから、窓口業務において小児慢性特定疾病に関する周知が進んでいるのかも知れない。海外からのアクセスについては、例年と大きな差異はなく、ブラウザの言語設定が、日本語もしくは英語であることから、海外在住の日本人による閲覧が中心である可能性が高いと思われた。

端末（デバイス）別アクセス数

スマートデバイスからのアクセスが全体の7割であり、また全ての時間帯において最も多く

利用されるデバイスであった。これらは患者・家族を含む一般国民からのアクセスが主体と推察された。一方、勤務時間帯に利用が増えるデスクトップ端末からのアクセスは業務目的の者を多く含むと考えられた。それぞれの端末からのアクセス数・割合、利用時間帯の傾向は例年同様であった。

ページ閲覧の特徴

トップページを通らずに直接サイト内ページへ閲覧するケースが例年同様9割を超えていた。多くは、業務、個人に関わらず、検索サイトを通じて直接疾患ページに飛ぶか、必要なページにブックマークをしてアクセスしていると思われた。

問い合わせ件数との関連

今年度はウェブサイト経由の問い合わせ総件数は、行政からの業務に関する問い合わせ先が変更となったため、昨年と比べ減少している。患者・家族等の一般国民からの問い合わせは、年々増加しており、また企業やその他医療関係者、患者の会や一般の方からの問い合わせが増えてきていた。アクセス時間と問い合わせ時間帯のピークがほぼ重なること、スマートフォンからの検索が増加したことから推察すると、一般国民に対する窓口として働いていると考えられた。問い合わせ内容については、多岐にわたっており、とくに内容に偏りは認められなかった。

E. 結論

本ウェブサイトは、医療従事者、行政事務従事者、患者やその家族など、国民全般から幅広く閲覧されていることが推察され、小児慢性特定疾病に関する情報発信手段として有効に活用されていると思われた。いずれの端末からもアクセス数は横ばいであり、本ウェブサイトで発信する情報はそれらを必要としている国民に概ね行きわたったと考えられる。

今後もさらなる視認性の向上や分かり易い情報提供を心掛け、引き続きより多くの国民に向けて、最新かつ正確な情報発信を行いたい。

F. 研究発表

論文発表/学会発表
なし/なし

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

特許取得/実用新案登録/その他
なし/なし/なし

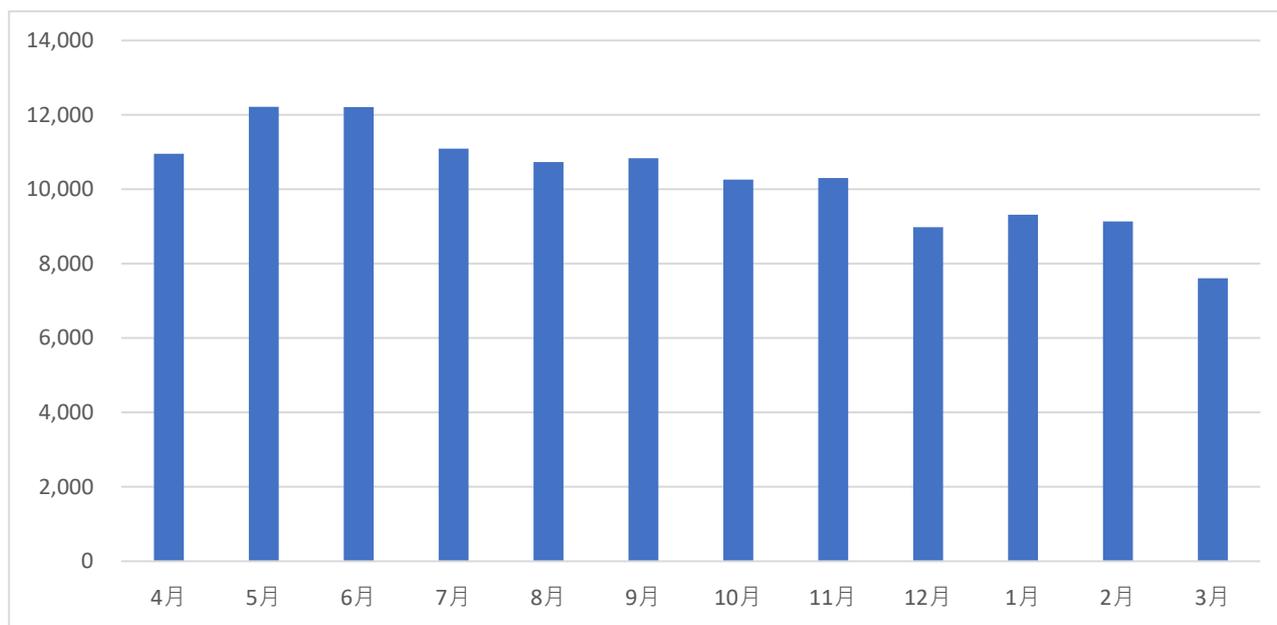


図1. 2022（令和4）年度 月別一日平均アクセス数

表1. 2022（令和4）年度 曜日ごとの平均アクセス数

曜日	平均アクセス件数（件）	標準偏差（件）	頻度（日）
平日	11,855		243
月	11,988	2,082	47
火	12,285	1,575	49
水	12,002	1,494	50
木	11,997	1,622	47
金	11,030	1,308	50
土日祝日	7,219		122

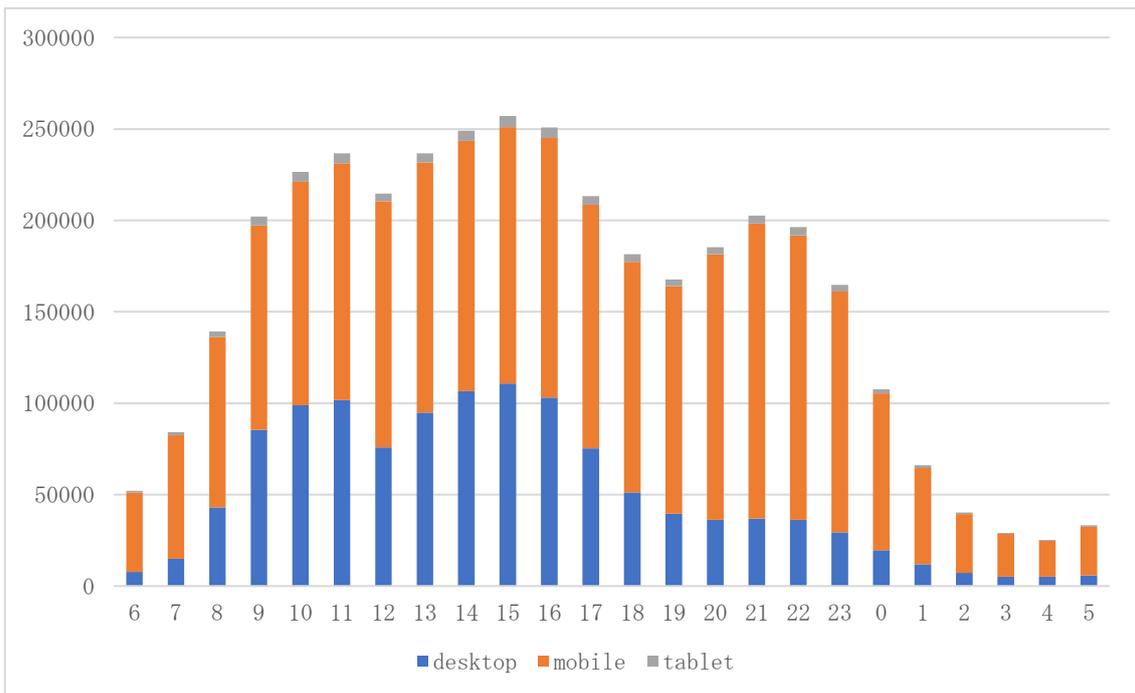


図2. 2022（令和4）年度 時間帯ごとのアクセス数（端末種別）

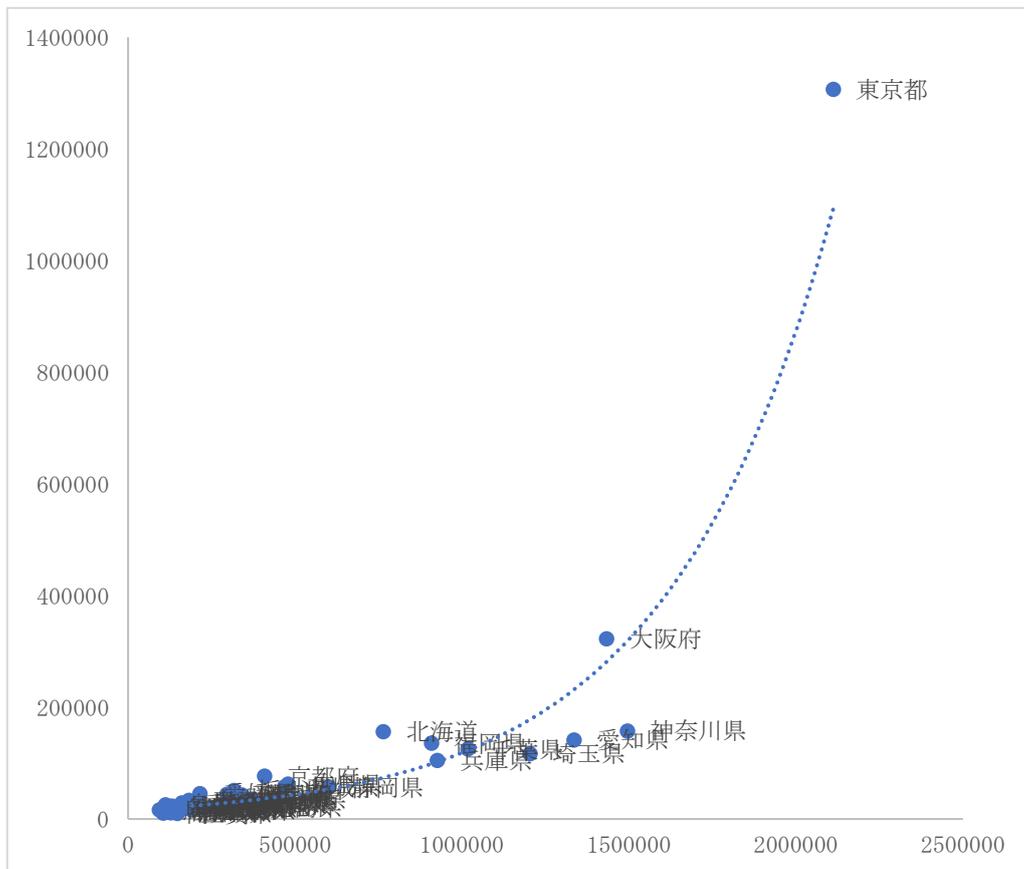


図3. 都道府県別の20歳未満人口とアクセス数